

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100602		
法人名	特定非営利活動法人いきいき会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	東
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地		
自己評価作成日	平成 23 年 1 月 26 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572100602&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 23 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは地域密着型施設として、利用者様に対してはつながりを感じられる・暖かみのあるサービス提供をおこないつつ、地域に向けての認知症高齢者が安心して暮らせる街づくりの啓発活動に参加している。具体的には利用者様の過ごし方を全て施設側の枠に当てはめることのないよう気を付けながら、一日の「やるべきこと」は特に定めずに過ごしていただき、そのときしたいと思われたこと(買い物・電話・調理など)を出来るだけ安全に行うための支援や不快な刺激を緩和することにより周辺症状の軽減効果のあるマッサージ(タクティール)、啓発活動の一環として、門川町社会福祉協議会が実施する「いきいきサロン」内にて各地区公民館で認知症サポーター講座を開催する等の活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、田園風景が広がる静かな環境に立地している。理念である「その人の思いを大切に、その人の思いを自分に置き換えるケアを推進し、その人の『笑顔』が見たい」を全職員で取り組んでいる。ホーム内は、職員も笑顔、挨拶、気配りが自然で、生活感のある雰囲気、来訪者にとっても居心地の良さを感じる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の思いを大切に…わかりやすい理念を掲げ毎月の勉強会において唱和したり、ケアにいそぎまった時等、理念を思い出すようにして、日々実践につなげている。	事業所に関わる全ての方の共有理念として、お便りや家族会等を通して外部に発信している。具体的な理念にしたことで事業所のケアの原点として立ち戻る働きかけや機会に結びついている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地区の遠足に毎年招待して頂いたり、年間行事(母の日のお祝い・夏祭り・地域祭り等)には協力していただき交流を深めている。	自治会の行事に招待されたり、事業所の行事にも協力をいただくなど地域と関わりを持っている。利用者が地域住民として受け入れられる基盤を築き、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「見守りパトロール」を実施したり、認知症サポーター養成講座の実施、九保大生、門川高校生の実習を受け入れたりして、地域貢献活動としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、全スタッフに報告を行い、改善しなければならない点は、話し合い改善している。第三者からの意見を大切に、日々サービスの向上に努めている。	運営推進会議で出された意見などをファイルにまとめ、ご家族や来訪者がいつでも目を通せる場所に開示している。第三者の意見がサービス向上のためには重要であるという認識を持ち、改善に向けた取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度についての問い合わせや確認など積極的に情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は、町の担当者と運営上の報告や課題について気軽に情報交換や相談できる関係を築いている。また、必要な情報を職員へ伝えている。	今後も継続して役場に事業所の取り組みを公開するなどして、今まで以上のより密な関係作りを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフ身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、帰宅欲求やBPSD等が出現時には、安全面を考慮して施錠することがある。	職員は、鍵をかけることの弊害を十分認識しているが、利用者の安全確保のため施錠することがある。ケアを行う上で身体拘束に当たらないかなど自分に問いかける習慣づけが職員にみられる。	鍵をかけないケアの取り組みをさらに工夫してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修には積極的に参加し、虐待は身体的虐待だけでないことを周知し、どういった行為が虐待となるのか、日頃のケアの中にその可能性が潜んでいないかを毎月の勉強会の中で検証している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度の研修会等には、積極的に参加している。日常生活自立支援事業を2名の方が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族の要望等を聞き、十分な説明を行い理解・納得をされてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置している。ご家族面会時に職員が日頃の様子を伝え、ご家族の要望も聞いている。また、運営推進会議においても要望や意見を受け止め、改善に努めている。	お便りや葉書、電話等で事業所や利用者の状況を発信し、家族の来訪時に意見や要望が気軽に話せる関係が築かれている。出された意見は真摯に受け止め、改善策を検討する体制がある。	遠方でなかなか来訪できない家族や直接言葉で伝えにくい事柄など、家族の意見や希望をより広く聞ける工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会には代表者も参加され、運営に関する職員の意見や提案を聞き、反映させている。	毎月の勉強会で職員の意見や提案が代表者に直接伝わり、運営に反映できる体制が取られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はキャリアパスを奨励し、資格取得の支援や研修終了後に手当で処遇している。労働時間は職員の意向を聞き、働きやすい環境にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の職員の能力や資質に応じて社外研修や資格取得の機会を確保して支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、地区ごとに研修会も開催して情報交換等しながらサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者様とご家族に、困っていること、不安なこと等を十分に話を聞き、安心してサービスが利用者様やご家族にとって適切なのか、一緒に考えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族も利用者様同様、不安な面も多い為、電話連絡を行い、その日の状態等伝えている。又、面会に来られた時には、日頃の状態を伝える様にし、要望があれば思いに添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と話し合い、どのような支援が必要なのか、その人の性格、生活歴等を参考にしてサービス内容を検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩として経験豊かな入居者様達から教えられることは多い。家事等にかかわりの中では、スタッフが意識的に教えて頂けるような場面作りをしたり、役割を持っていただけるように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各催し等において、ご家族には積極的に参加して頂き、一緒に食事したりして楽しませている。又、散歩に行かれたり、買い物に行ったりして絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会や知人、友人の面会は良くあり、外出・外泊にも制限を設けず、ご本人の大切な関係を継続できるよう支援している。	家族の協力を得て馴染みの場所に出かけ外食を楽しむ機会づくりなど、今までの人間関係を断ち切らないような配慮がなされている。また、地域の理容室を利用する等新しい馴染みの関係作りも行っている。	以前、取り組まれていた「ふるさと訪問」などの支援も取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見極め、利用者様が孤立しない様職員が間に入り、かかわりがもてる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で利用が終了されても、ご家族の相談に応じたり、訪問したり、電話連絡を行うなどの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、仕草などからその人の思いを察し、自分自身に置き換えて接するように努め、その人の『笑顔』が見られるよう支援している。	言葉で表出出来ない方を含め、日頃から会話やしぐさ等から、性格や好み、思いを察し、自分に置き換えて把握するようにしている。利用者の笑顔を求めて支援するなど、理念が活かされたケアが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけ情報収集を行い、把握できなかった部分については、ご本人の会話の中から見つけ出している。ご家族面会時にも話を聞き、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、出来ること、支援すれば出来そうな事等を見つけて出し、利用者様のもてる力を十分に発揮できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状況やご家族の意見・要望、アセスメントの内容を勘案のうえ、毎月のカンファレンスで職員の意見やアイデアを反映しながら作成している。	毎月モニタリングを行い、本人や家族の思いや意向を把握し、ケアのあり方について全職員で話し合いながら介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や気づき、工夫等を詳細に記入し、その情報を基に計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間で交流したり、自施設のデイサービスに行ったりして、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	見守りパトロールの実施や保育園児との交流、地域のボランティアの方々の訪問も多く、協働で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう、ご本人、ご家族の意向を尊重している。また、ご家族だけで受診介助する時は、情報提供書を作成して適切な医療を受けられるようにしている。	利用者の希望される医療機関を原則としている。普段の暮らしを直接伝えるために職員が通院介助を行ったり、家族が付き添われる場合は暮らしぶりや健康状態が分かる情報提供を行って、適切な医療が受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、日々、利用者様の表情や顔色等の変化に気をつけ、いつもと違うと思った時は、看護師に報告し指示を受ける様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要になった場合は、サマリーを提出したり、お見舞いに行ったりしてリロケーションダメージを最小限に抑えられるようにしている。又、早期に退院できるよう病院関係者とは密に連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期生活支援に関する覚書を説明し、ご本人の意向、ご家族の希望等を聴きサインを頂くようにしている。変化が生じた時には、主治医からの説明と共に、ホームの方針や起こりうるリスクなどもご家族に説明して、今後の支援の方向を検討するようにしている。	入居時にホームの方針を説明し、利用者・家族の意向を確認している。また、状況の変化に応じて、今後のリスクや支援の内容を医師、家族を含めて検討できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会などで看護師が中心となり、応急手当や初期対応の研修や訓練を繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防職員による、避難訓練、消火訓練を昼夜を想定して実施している。又、地域の消防団の協力も得ている。	地域の消防団の協力を得ながら昼夜を想定して、定期的に避難・消火訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大前提として、排泄に関する時などの個人のプライドを傷付ける恐れがある時は、耳元で小声で伝えるなど、プライバシーに配慮している。	排泄、入浴時などには利用者の尊厳を大切に言葉かけや気遣いをされている。利用者の立場を自分に置き換えたさりげないケアが行われ、理念が活かされた対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意思の確認をしている。又、日々の会話の中で本人の思いを察知し、その思いに添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を優先して、散歩や買い物の付き添い等、楽しくホーム生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様の服装や髪型の好み等を日々の会話の中から見つけ出し、その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを取り入れ、調理はご本人のできる範囲でして頂き、食事も利用者様と職員が同じテーブルを囲んでいる。	利用者の好みを取り入れて献立をたてている。また、利用者のできること、力を活かして一緒に調理し、職員と一緒に家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームのメニューは、医療機関の栄養士に相談し作成している。食事量、水分量については個別のチェック表を作成し、把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、義歯のポリドント消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄ができる様に、排泄パターンの把握をしている。サインを見逃さない様、職員が気をつけ支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立に向けた支援が積極的に行われており、効果がみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、排便状態を把握する様にしている。薬に頼りすぎず体を動かしたり、水分、食事の工夫など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望があれば、入浴日でなくても入浴できるようにしている。入浴時は楽しく入浴できる様、利用者様の好む話をしながら支援を行っている。	基本的には週3回であるが、希望に沿って回数を増やすことが可能となっている。入浴中も利用者との大切なコミュニケーションの場という認識を持ち、利用者がリラックスして楽しんで頂けるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の昔からの生活習慣を知り、一人ひとりに応じた支援を行っている。出来るだけ日中は、無理のない程度に活動し、夜間よく眠れる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬剤情報を確認し、医師の指示通りに内服できるよう、二人で確認後、服薬する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で出来ること、出来そうなことを見つけ出していき、利用者様が喪失感を抱かない様、職員と一緒にいきりげなく支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様との会話の中で、行きたい所、希望を聞き出し、ホーム周辺の散歩や、見守りパトロールに出かけたり、近くのスーパーに買い物に出かけたりしている。	一人ひとりの希望に沿って、散歩や買い物など外出支援に努めている。また、外出を兼ねて「地域の見守りパトロール」を実施し、地域貢献も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や力に応じて支援している。買い物に出かけた際には、出来るだけ本人の力で買い物ができる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をかけたい時は、かけてもらっている。本人がかける事のできない利用者様には、職員と一緒にかける様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームに咲いている草花を飾ったりして、季節感を出す様にしている。花も職員が飾るのではなく、利用者様と一緒にしている。	利用者の作品や写真、季節の花なども飾られている。生け花など利用者自身に居心地のよい空間づくりに参加してもらう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルには、気の合った利用者様同士が近くに座れる様に配慮している。また、居間を活用しながら、一人ひとりが思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使われている家具や使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく過ごしてもらっている。	居心地のよい居室空間作りができるように、利用者や家族に働きかけて、その人らしい馴染みの物や生活感のあるものが持ち込まれているが、持ち込みの少ない居室もある。	その人らしい部屋作りになるよう家族にアドバイスするなど積極的な働きかけを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっている。また、一人ひとりの身体機能を活かせるように、手すりの設置など工夫している。		